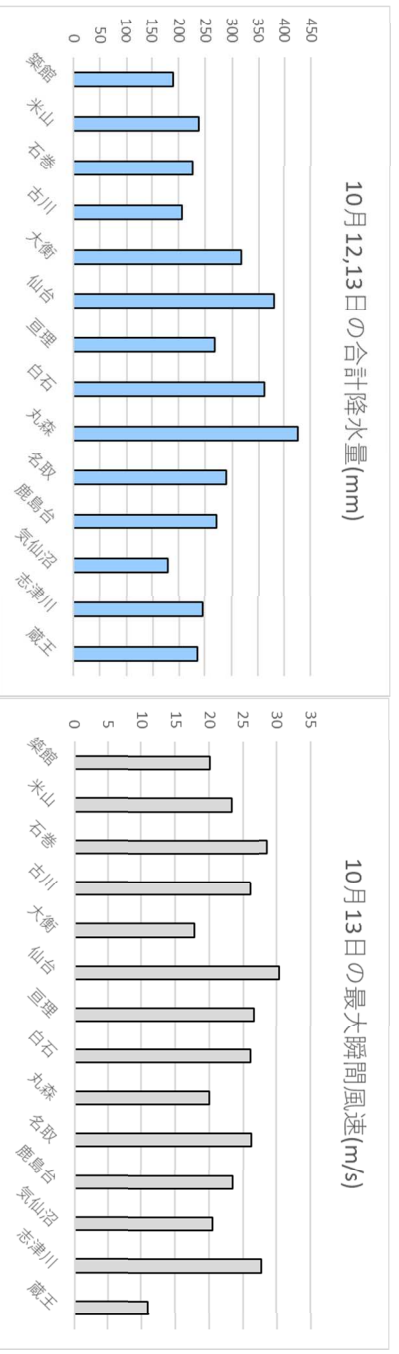


台風19号による被害と今後の管理について！！

1 雨量と風速

(県内 アメダス)



- ・ 10月12日～13日にかけて台風19号が宮城県に接近し、各地に甚大な被害をもたらした。
- ・ 2日間の降水量は県内各地で150mmを超え、中でも丸森町では400mmを超えた。
- ・ 10月13日の最大瞬間風速は、多くの地域で20m/sを上回り、仙台では30m/sを超えた。

2 被害の状況

- ・ 宮城県調査によると10月16日現在で、14の市町で農作物被害があり、2億円程の被害額と公表されている。
- ・ 各JAからの聞き取りによると浸冠水を受けた大豆圃場は、約7,000haに上り作付面積の7割になる。
- ・ 被害の状況は、冠水日数や水の濁り状態、排水の良否などにより、大きく異なるようである。
- ・ 生育ステージも品種や播種時の悪天候で播種時期の遅れにより、様々なステージがある。
- ・ 生育ステージは、緑葉期、落葉期、成熟期などがあり、被害の程度も異なると思われる。
- ・ 風雨により主に南東側へ倒伏している圃場が多く、その程度も様々である。



【収穫時に想定される被害】

- ① 収量 —収量の低下、収穫ロスの増加、小粒化
- ② 品質 —未熟粒、腐敗粒、しわ粒、汚粒、整粒割合の低下
- ③ その他—石・ゴミなどの異物混入、収穫時のコンバインの損傷・詰まり、砂埃の舞い上がり

3 今後の管理

(1) 収穫時の注意点

- ・ 落ち着いてから、圃場の排水対策を再整備する。
- ・ 倒伏している場合は収穫作業は丁寧に行い、なるべく収穫ロスを減らす。

- ・収穫作業時はコンバインの破損や砂埃に注意しながら，安全かつ慎重に作業を進める。
- ・土壌や雑草による汚粒の発生を極力注意しながら収穫作業を進める。
- ・後作に麦類の播種を予定している圃場では，可能な圃場から順次圃場準備作業を進める。

(2) 雑草対策

- ・収穫時に水分の高い雑草が残っていると，汚粒の原因となる。
- ・雑草の多い圃場等へ耕起前に非選択性除草剤を散布する場合は，下記に十分注意して処理する。



【 記 】

ー「ラウンドアップックスロード」による大豆の落葉終期～収穫 14 日前までの雑草防除(雑草茎葉散布)ー

「ラウンドアップックスロード」(成分：グリホサートカリウム塩・・・48%)

[品目特性]

吸収移行型の除草剤で非選択的にほとんどすべての一年生，越年生，多年生草本及び木本植物に作用する。

[薬効・薬害等の注意]

※大豆の落葉終期～収穫 14 日前までに使用する場合，特に以下のこと注意到意する。

- ①落葉終期とは，大豆の葉の大部分が落葉した時期とする。
- ②大豆着生葉や莢色に淡緑色が残っている等の成熟の遅れた株（青立ち株）に散布すると，子実の変色やしわ粒等が発生する場合があるので，散布前に除去等を行う。
- ③気温が低下する条件での処理であり効果の完成まで2週間以上の期間を要するので，収穫時期は処理後3週間を目安とする。
- ④散布後から収穫までの週間程度がかかるため，収穫時期が遅れ適期収穫が困難になり，しわ粒の増加による品質低下や裂莢による減収のリスクがある。

[変色した子実の発生状況]

事例 1：2017・2018 A JA管内の「タチナガハ」

「大豆の表皮が煤（すす）のような色がついた粒が散見され業者からクレーム」

- ・原因として，落葉終期以前にまだ青味のある葉や莢がある状態で散布を行ったか，青立ち株が多い状況で散布したのではないかと考えられた。



事例 2：2018 B JA管内

- ・大豆の種皮が煤けていた。生産者等からの聞き取りから，ラウンドアップックスロードを未熟な大豆や青立ちが残っている状態で散布したためではないかと思われた。